

公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅲ 訂正・改訂箇所一覧

【テキスト】

該当科目	ページ	ページ内該当箇所	訂正前・改訂前	→	訂正後・改訂後
	1	財団法人 日本体育協会	財団法人	→	公益財団法人
	2	財団法人 日本体育協会	財団法人	→	公益財団法人
	3	本文 1行目	財団法人日本体育協会及び～	→	日本体育協会及び～
	3	本文 5行目(見出し)	財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者とは	→	日本体育協会公認スポーツ指導者とは
	3	本文 6行目	財団法人日本体育協会及び加盟団体等が、～	→	日本体育協会及び加盟団体等が、～
	7	表-共通科目Ⅲ 科目名:スポーツの心理Ⅰ	内容:メンタルマネジメント	→	内容:メンタルマネジメント(メンタルトレーニング、プレッシャー、あがり、スランプの対処法含む)
	7	表-罫線の位置	科目名:スポーツの心理Ⅰ 内容:メンタルマネジメント/指導者のメンタルマネジメント/運動器のしくみと働き	→	スポーツの心理Ⅰ 内容:メンタルマネジメント(メンタルトレーニング、プレッシャー、あがり、スランプの対処法含む)/指導者のメンタルマネジメント
	7	表-罫線の位置	科目名:身体のしくみと働き 内容:呼吸循環器系の働きとエネルギー供給/スポーツバイオメカニクスの基礎/トレーニング論とその方法	→	科目名:身体のしくみと働き 内容:運動器のしくみと働き/呼吸循環器系の働きとエネルギー供給/スポーツバイオメカニクスの基礎
	7	表-罫線の位置	科目名:トレーニング論Ⅱ 内容:トレーニング計画とその実際/体力テストとその活用/スキルの獲得とその獲得過程/競技者育成と評価	→	科目名:トレーニング論Ⅱ 内容:トレーニング論とその方法/トレーニング計画とその実際/体力テストとその活用/スキルの獲得とその獲得過程
	7	表-罫線の位置	科目名:競技者育成のための指導法 内容:競技者育成システムにおける指導計画/競技力向上のためのチームマネジメント/競技スポーツをIT/アスリートの健康管理	→	科目名:競技者育成のための指導法 内容:競技者育成と評価/競技者育成システムにおける指導計画/競技力向上のためのチームマネジメント/競技スポーツをIT
7	表-罫線の位置	科目名:スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅱ 内容:アスリートの内科的障害と対策/アスリートの外傷・障害と対策/アスレティック・リハビリテーションとトレーニング計画/コンディショニングの手法/スポーツによる精神障害と対策/特殊環境下での対応/ドーピング防止	→	科目名:スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅱ 内容:アスリートの健康管理/アスリートの内科的障害と対策/アスリートの外傷・障害と対策/アスレティック・リハビリテーションとトレーニング計画/コンディショニングの手法/スポーツによる精神障害と対策/特殊環境下での対応/ドーピング防止	
第4章 身体のしくみと働き	79	本文右側 28-29行目	～例えば、さほど精密な動きが必要とされない大腿四頭筋では、～	→	例えば、さほど精密な動きが必要とされない大腿四頭筋では、～
	81	本文左側 5-6行目	～前頭面および水平面が定義される。	→	～前頭面(前額面とも呼ぶ)および水平面が定義される。
	86	図1	筋繊維	→	筋線維
	87	図4	Pco2mmHg	→	Po2mmHg
	88	本文左側 2行目	～Pco2=40mmhg(6)、～	→	～Pco2=40mmHg(6)、～
	88	本文左側 2-3行目	～温度37°Cの際のPO(2)に対するヘモグロビンの～	→	～温度37°Cの際のPo(2)に対するヘモグロビンの～
	88	本文左側 6行目	～Pco(2)が～	→	～Po(2)が～
	88	本文左側 10行目	～一方、Pco(2)が40mmhg近辺～	→	～一方、Po(2)が40mmHg近辺～
	88	注釈 6	6 mmhg 圧力の単位。1標準大気圧は760mmhgに等しい。	→	6 mmHg 圧力の単位。1標準大気圧は760mmHgに等しい。生体内の圧力の単位として正規にはtorrが用いられ、圧力と眼圧ではmmHgが用いられる場合がある。なお、標準大気圧の760分の1は1mmの水銀柱を支えることができ、その圧力を1水銀柱ミリメートル(mmHg)と呼ぶ。水銀柱ミリメートルの別名がトル(torr)である。
	88	注釈 7	P. 89からP. 90に移動	→	P. 89からP. 90に移動
	91	本文左側 21-22行目	～クレブス回路(TCA回路)と呼ばれる系で、～	→	～TCA回路(クレブス回路)と呼ばれる系で、～
	91	注釈 15 4-5行目	～クレブス回路に入る際の間媒体。	→	～TCA回路に入る際の間媒体。
	100	本文左側 5-6行目	～。陸上競技の投てき種目やスキーのジャンプなど、スポーツではこのマグヌス効果を利用するものが数多くある。	→	～。スポーツではこのマグヌス効果を利用するものが数多くある。
第5章 トレーニング論Ⅱ	124	本文右側 4-5行目	～。これらの値が低い(筋力差が大きい)と、～	→	～。筋力差が大きいと、～
第7章 スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅱ	186	表1 組織(器官)名:関節-軟骨* 障害の欄	損傷、変形(関節症)	→	変形(関節症)
	203	図8 キャプション2行目	ステアアップテープを補強する。	→	スターアップテープを補強する。
	232	奥付 編集発行	財団法人日本体育協会	→	公益財団法人日本体育協会